

【管理運営状況公表様式】

青森県立郷土館の管理運営状況  
(平成30年度～令和元年度指定期間評価)

県所管課	教育庁文化財保護課
指定管理者	TTHAグループ 代表 株式会社東奥日報社 代表取締役社長 河田 喜照
指定期間	平成30年4月1日～令和3年3月31日
指定期間評価対象期間	平成30年4月1日～令和2年3月31日

1 管理業務の実施状況

業務区分	概要
施設、設備等の維持管理に関する業務	施設の清潔を保ち、利用者に安全で快適な環境を提供するため、施設内外の清掃や冬期間の除雪、各種設備等の運転及び保守に関する業務、警備業務を実施した。
施設の使用許可及び使用料の徴収等に関する業務	青森県立郷土館条例等の規定に則り、利用者からの使用料の徴収やホール利用許可に関する業務を実施した。
郷土館の管理に関し必要な業務	施設の利用促進を図り、郷土館だよりや郷土館案内リーフレットの作成、展示会に関する広報などの業務、解説員による展示資料の解説に関する業務及びホールでの県直営以外の展示業務を実施した。

2 管理施設の利用状況

利用指標	年度	計画	実績	計画対比	前年度対比
入館者数(人)	H30	60,000	27,924	46.5%	119.9%
	R1	60,000	18,740	31.2%	67.1%
	平均	60,000	23,332	38.9%	
	H29(参考)	60,000	23,293	38.8%	70.9%

【増減理由】

平成30年度においては、指定管理者自主事業「岩合光昭写真展 ねこの京都」等を開催して好評を得たが、目標に対して46.5%の入館者数に留まった。

令和元年度においては、指定管理者自主事業「倉本聰の仕事と点描画展」等を開催したが、様々PRに取り組んだが集客に繋がらず、入館者数が減少し、目標に対して31.2%の入館者数に留まった。

また、2年間の平均入館者数は、23,332人であり、目標に対して38.9%の達成率となっており、全体として入館者数が減少している。

### 3 評価結果

評価項目	指定管理者 自己評価	県所管課	
		評 価	コメント
①サービスの維持・向上に向けた取組みが適切に行われているか。	4	3	業務を円滑に実施するための人員配置を行うとともに、職員のマナーや資質向上のための研修を計画的に実施し、利用者へのサービス向上に努めている。
②利用促進に向けた取組みが適切に行われているか。	4	4	指定管理期間全般を通じて新聞掲載によるPRを積極的に行った他、高校生と協力しインバウンド受入を図るなど、多様な広報活動を展開し、施設の利用促進を図った。
③施設、設備及び備品の維持管理及び修繕が適切に行われているか。	3	2	清掃、警備等の業務仕様書に則り、施設、設備等の維持管理に関する業務を行っていたが、一部の設備の保全について、十分な面があった。
④緊急時の対応・安全管理などの危機管理が適切に行われているか。	3	3	緊急時の対応マニュアルの徹底や避難訓練の実施など、施設利用者の安全確保対策に取り組んでいる。
⑤指定管理料が適正に執行されているか。	3	3	照明のLED化や節電などにより経費の節減を行うとともに、業務仕様書に基づいて適正に経理業務を遂行している。
⑥成果目標達成のための努力が行われ、成果が上がっているか。	2	2	自主事業の実施や、グループの特徴を活かした各種媒体による広報活動を展開したが平成30年度、令和元年度ともに、目標数値の半分にも満たなかった。
⑦その他法令等を遵守した管理運営が行われているか。	3	3	労働法令を遵守するとともに、職員に対する個人情報保護に関する研修の実施や個人情報の漏洩を防止するための体制を確立するなど、法令の遵守に努めている。
総合評価	3	3	利用指標である入館者数は当初の計画を下回る結果となったが、様々な広報活動の実施など利用促進に向けた努力は払われていた。また、一部の設備の保全について検査が未実施であったことが判明したことから、再発防止について検討する必要があるが、その他は計画どおり維持管理されており、総合的に業務水準書等の内容が満たされていると評価する。

#### ○評価基準

- 5（秀）：業務水準書等の内容を上回り、特筆すべき実績をあげている
- 4（優）：業務水準書等の内容を上回り、優れた実績をあげている
- 3（良）：業務水準書等の内容が満たされている
- 2（可）：業務水準書等の内容が満たされず、一部改善を要する
- 1（不可）：業務水準書等の内容が満たされず、重大な改善を要する